

組 番 氏名 _____ / 100点

本文

三代の栄耀（えいよう）一睡のうちにして〔①〕、大門の跡は一里こなたにあり。秀衡（ひでひら）が跡は田野になりて、金鷄山（きんけいざん）のみ形を残す。まづ高館（たかだち）に登れば、北上川、南部より流るる大河なり。衣川は和泉が城を巡りて、高館の下にて大河に落ち入る。泰衡（やすひら）らが旧跡は、衣が関を隔てて南部口をさし固め、夷（えぞ）を防ぐと見えたり。さても、義臣すぐつてこの城にこもり、功名一時（こうみょういちじ）の叢（くさむら）となる。〔②〕

「国破れて山河あり、城春にして草青みたり〔③〕」と、笠打敷きて、時のうつるまで涙を落しはべりぬ。〔④〕

夏草や兵（つわもの）どもが夢の跡〔⑤〕

卯の花に兼房（かねふさ）見ゆる白毛（しらが）かな 曾良〔⑥〕

設問（全25問）

- 傍線部①「一睡のうちにして」を、ここでの文脈に合うように現代語訳しなさい。
- 傍線部①「一睡のうちにして」という表現は、藤原氏の歴史についてどのようなことを表しているか、簡潔に説明しなさい。
- 傍線部②「さても、義臣すぐつてこの城にこもり、功名一時の叢となる」を現代語訳しなさい。
- 傍線部④「時のうつるまで涙を落しはべりぬ」を現代語訳しなさい。
- 本文冒頭の「大門の跡は一里こなたにあり」を、「こなた」の意味に注意して現代語訳しなさい。
- 傍線部③「国破れて山河あり、城春にして草青みたり」は、ある中国の詩人の漢詩をふまえた表現である。この詩人の名前と、ふまえられている漢詩の作品名を、それぞれ漢字で答えなさい。
- 問6でふまえられている漢詩の、もとの該当する二句を、書き下し文（訓読でも可）で答えなさい。
- 芭蕉がこの「平泉」の段で、わざわざ中国の詩人の漢詩を引いたのはなぜか。その意図を、平泉の今のありさまにふれて説明しなさい。
- もとの漢詩では「城春にして草木深し」となっている部分を、芭蕉は「城春にして草青みたり」と改めている。芭蕉がこのような言いかえたのはなぜだと考えられるか、説明しなさい。
- 発句⑤「夏草や兵どもが夢の跡」の季語を抜き出し、その季節を答えなさい。
- 発句⑤「夏草や兵どもが夢の跡」の切れ字を抜き出しなさい。
- 発句⑤「夏草や兵どもが夢の跡」の「夢」とは、ここでは具体的に何をたとえているか説明しなさい。

13. 発句⑤「夏草や兵どもが夢の跡」にこめられた作者の心情を、目の前の「夏草」の情景と対比させながら説明しなさい。
14. 発句⑤の句切れ（初句切れ・二句切れ・句切れなしなど）はどこにあるか答えなさい。
15. 傍線部②「すぐつて」について、もとの動詞（終止形）と活用の種類を答えなさい。
16. 傍線部④「時のうつるまで涙を落しはべりぬ」の「はべり」の文法的意味（種類）を答えなさい。
17. 傍線部④の「落しはべりぬ」の「ぬ」は、文法的にどのような意味の助動詞か（終止形も合わせて）答えなさい。
18. 本文中の「三代の栄耀」とは、だれの三代にわたる栄華を指すか。一族の名を漢字で答えなさい。
19. 本文中の「功名」の読みと意味を答えなさい。
20. 芭蕉が傍線部④で涙を落としたのはなぜか、この段の内容（栄えたものの今のありさま）をふまえて説明しなさい。
21. 発句⑥「卯の花に兼房見ゆる白毛かな」の作者を本文中から抜き出し、「卯の花」と「白毛（白髪）」がどのような点で重ね合わされているか説明しなさい。
22. この「平泉」の段全体を通して芭蕉が感じ取っている、人の世のはかなさをいう仏教的なものの見方を、漢字三字の語で答えなさい。
23. 【文学史】『おくのほそ道』の作者名を漢字で答えなさい。
24. 【文学史】『おくのほそ道』のように、旅の体験を俳句（発句）をまじえてつづった文章のジャンルを何と呼ぶか答えなさい。
25. 【文学史】『おくのほそ道』が成立したのは何時代か答えなさい。